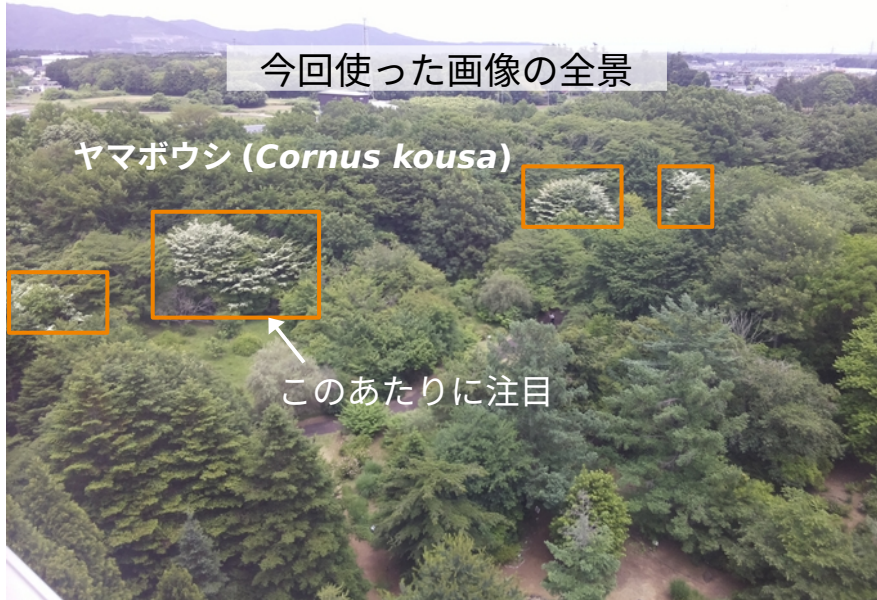


ヤマボウシの総苞片の開き@筑波実験植物園 (TBG)

このPENだよりでは, Phenological Eyes Network (PEN) が取得したデータの中からいくつかのデータをピックアップして不定期にご紹介します。今回は, 国立科学博物館 筑波実験植物園内の自然史標本棟屋上に設置した自動定点カメラが捉えたヤマボウシ (*Cornus kousa*)の総苞片の開きの様子をお伝えします。(中村・笹川・奈佐原)



ヤマボウシはミズキ科の落葉樹で、5月ごろに白い花のように見える「総苞片」を開きます。総苞片の中心にある黄緑色の球形が花序（花の集まり）です。

ヤマボウシの若い個体は毎年開花しますが、壮齢樹では2-3年に1回、老齢樹では5-6年に1回開花するそうです¹。2023年は5月1日ごろから総苞片の開きが見られ、樹冠が白くなっているのが確認できます。対して2024年はほとんど総苞片の開きが見られませんでした。

▼ヤマボウシの花



現地での様子

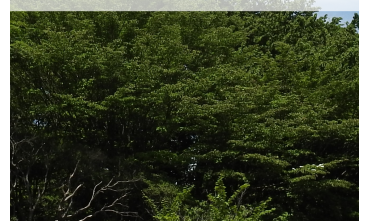
▼ 2023/06/01撮影

白い総苞片が多数見える



▼ 2024/06/12撮影

総苞片がほぼない



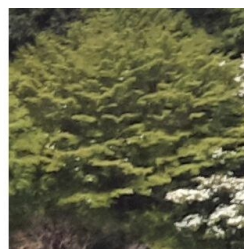
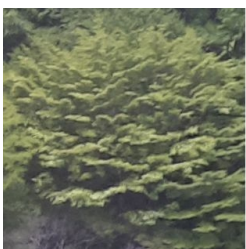
2023/04/29

2023/05/07

2023/05/30

2023/06/07

2023



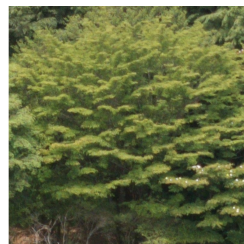
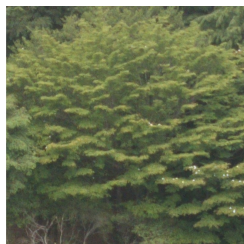
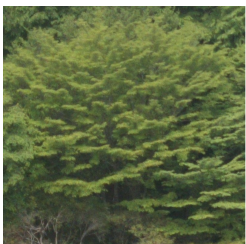
2024/04/29

2024/05/07

2024/05/30

2024/06/07

2024



これらの画像はPENのwebサイト (<https://pen.envr.tsukuba.ac.jp/~TBG/summary/dc/>) からご覧になれます。

PENだよりについてのご意見・ご感想などは、s2421169@gmail.comまでお寄せください。

参考文献：[1] 八田洋章（監修）．樹木生活史図鑑．北隆館，2024．